

1. デザイン・レイアウトの修正

主な意見	目的・背景	対応
表紙デザインの修正	どこの町の計画か、町民がパッと見て「田原本らしい」と直感的に分かるようにするため。	表紙については今回提示した「みんなで育てる田原本」のデザインを基本としますが、今後の基本計画策定および計画書作成の段階で、全体を通して検討してまいります。
A3二つ折りの「概要版」作成	50ページの本編は全世代には読まれないため。忙しい現役世代でも一目で全体像と共生社会のイメージを掴めるようにするため。	いただいた意見を参考に、リーフレット形式の概要版の作成について検討してまいります。
イラストのアンコンシャスバイアス修正	無意識の偏見（性別役割分業など）を助長しないよう、フラットで多様性のある表現にするため。	多様性に配慮したフラットなイラスト表現に修正しました。
「総合計画の全体像」の配置見直し	まず大きな全体図を見せてから各論に落とし込んだ方が、住民の理解を得やすいため。	冊子の構成上は見送りましたが、概要版（リーフレット）において分かりやすく配置することについて検討してまいります。
白抜き文字の視認性改善	老眼の世代を含め、誰でもストレスなく読めるようにするため。	視認性を重視し、文字サイズや配色を調整しました。
5つの基本目標のカラーリング	各基本目標のカテゴリを視覚的に区別し、全体像とのつながりを理解しやすくするため。	今後の基本計画策定および計画書作成の段階で、全体を通して検討してまいります。

2. 文言・原稿の修正（基本構想案）

主な意見	目的・背景	対応
全体像ページの将来像フレーズ修正	決定したキャッチフレーズと資料内の表記の整合性をとり、反映漏れを直すため。	将来像を「わたしが関わり、みんなで育む『ちょうどいい幸福田園都市・田原本』」に統一しました。
基本目標の「漢字2文字」の削除・見直し	漢字2文字では分野（健康福祉など）とのリンクが不明確で、全体像との繋がりが分かりにくいため。	政策分野との整合性を明確にするため、漢字2文字の見出しを削除しました。
政策の表記・表現の修正	日本語としての正確性を担保し、前後のページとの表記揺れをなくすため。	「農業、産業」を「農業、商工業」に変更、また基本目標4の「地域の価値を高め」を「魅力」に統一するなど、表記揺れをなくし正確な用語に修正しました。
政策名の表現について	子育て、観光、農業、商工業といった標準的な行政カテゴリーを用いることで、住民にとっての内容の理解を助けるため。	本計画では、従来の行政的な表現や縦割り（分野別）の枠組みをあえて排除し、住民視点で横断的な価値観を共有できる表現を採用しました。
3つの柱の表現の平易化・工夫	中高生などの若年層にも理解してもらい、計画を「自分ごと」として捉えてもらうため。	すべての用語を平易にするとかえって趣旨が不明瞭になるため、必要と思われる箇所に絞って対応しました。
3つの柱に「都市基盤・利便性」の要素を補足	アンケートで要望の多かった要素が柱から抜け落ちているように見えないようカバーするため。	3つの柱にはこれらの要素も込めておりますが、今後策定する基本計画にもしっかり反映させていきます。
人中心の視点を示す具体例・ポンチ絵の挿入	住民の困りごとが計画によってどう解決されるかを示し、若者等に「自分ごと」として捉えてもらうため。	シンプルで手に取りやすい計画とするため、基本構想段階での表現には限りがありますが、今後の基本計画や計画書全体の策定過程において、生活課題の解決を視覚的に表現していきます。

3. 今後の計画策定に向けた準備・確認事項

主な意見	目的・背景	対応
第4次総合計画の評価・課題の明記	なぜこの新計画が必要なのか、これまでの10年の課題を踏まえた連続性を示すため。	シンプルで手にとりやすい計画とするため基本構想での表現には限りがありますが、アンケート調査結果の整理や今後策定する基本計画の中で、前計画の総括を表現してまいります。
アンケート結果（交通等）の分析	交通の便に対する評価の二極化などを正確に分析し、今後の具体的な施策に反映させるため。	年代や居住エリアといった属性ごとの傾向を丁寧に読み解き、その結果を今後の基本計画における具体的な施策立案に役立てます。
政策の内容・文言の審議について	今後検討される施策の具体的な話とリンクさせながら、基本構想の表現が適切であるかをチェックするため。	本審議会では基本構想（基本目標や政策の大綱等）をご審議・答申いただく場であり、具体的な施策については答申後に策定する「基本計画」の中で検討いたします。委員ご指摘の通り、構想の文言が将来のアクションをイメージした際に齟齬のないものとなるよう、策定プロセスの中で適切に整合を図ってまいります。
庁内総合計画策定委員会での揉み込み	全庁的な合意形成を図り、次回のパブリックコメント向け素案を固めるため。	庁内の委員会等で改めて議論を重ね、全庁的な合意形成を図った上でパブリックコメント案として練り上げます。